

令和2年度 決算報告

令和2年度市の一般会計・特別会計を報告します。納められた税金や、国・県からの補助金などがどのように使われたのかをお知らせします。

財政課

995-1801

一般会計・特別会計・決算総額

歳入総額

374億2,502万円

令和元年度：307億 43万円
対前年度比 21.9% 67億2,459万円

歳出総額

362億9,864万円

令和元年度：297億1,423万円
対前年度比 22.2% 65億8,441万円

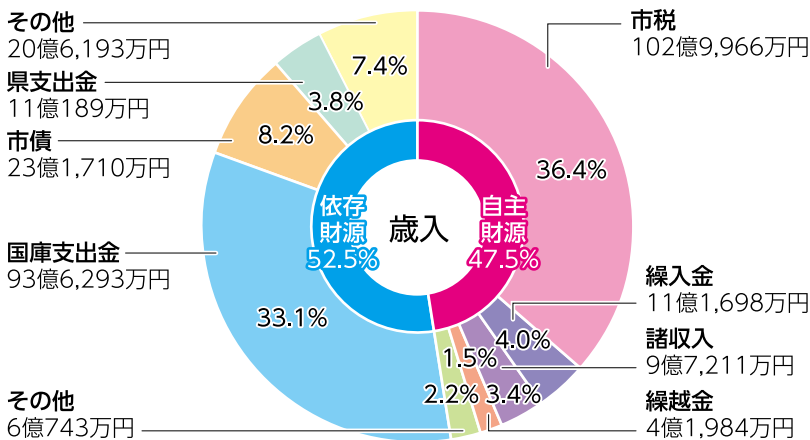
一般会計

収 支	実質収支額	6億1,062万円	●実質単年度収支▶単年度収支に基金積立などの黒字的要素を加算し、赤字の要素の財政調整基金取り崩し額を減じた実質的な収支額です。令和2年度は財源不足に対応するため財政調整基金を5億4,838万円取り崩しています。
	単年度収支額	2億5,851万円	
	実質単年度収支額	▲2億8,978万円	

歳入総額

282億5,988万円

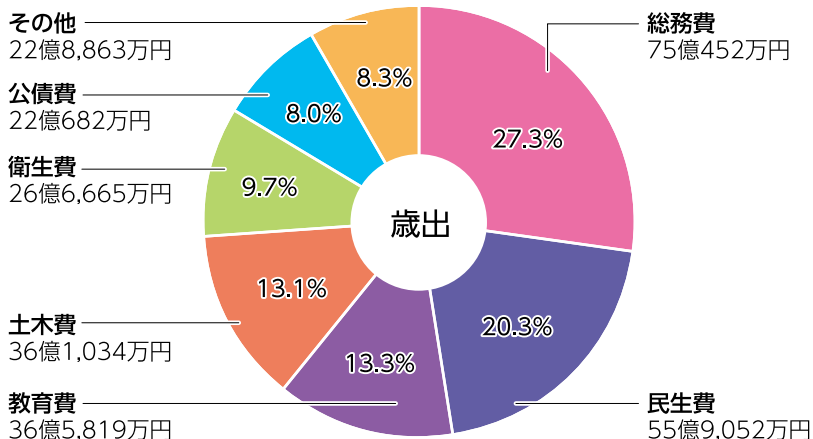
令和元年度：215億3,387万円
対前年度比 31.2% 67億2,601万円



歳出総額

275億2,566万円

令和元年度：209億3,403万円
対前年度比 31.5% 65億9,163万円



用語解説

歳入 自主財源

市税▶市市民税、固定資産税、軽自動車税など
繰入金▶基金の繰入金など
諸収入▶延滞金、預金利子、雑入、貸付収入など
繰越金▶前年度の剰余金
その他▶分担金、負担金、使用料、手数料、財産収入、寄付金など

歳入 依存財源

国庫支出金▶国から交付される補助金など
市債▶借入金
県支出金▶県から交付される補助金など
その他▶地方交付税、地方消費税交付金、地方譲与税、利子割交付金など

歳出

民生費▶障がい者や高齢者の福祉サービス、保育園、子育て支援、生活保護費など
土木費▶道路、河川、公園の維持・管理費など
教育費▶幼稚園や小・中学校、社会教育やスポーツなどの費用
衛生費▶病気予防やごみ処理などの費用
総務費▶庁舎や財産の管理、税金の徴収、戸籍事務などの費用、特別定額給付金など
公債費▶借入金の返済金
その他▶消防費、農林水産業費、労働費、商工費、議会費、災害復旧費など

特別会計

歳入

	令和2年度決算額	令和元年度決算額	対前年度比	
国民健康保険	49億1,971万円	50億7,530万円	▲3.1%	▲1億5,559万円
後期高齢者医療事業	6億 461万円	5億6,089万円	7.8%	4,372万円
介護保険	35億9,445万円	34億3,161万円	4.8%	1億6,284万円
土地取得	26万円	22万円	13.8%	4万円
十里木高原簡易水道	—	4,985万円	皆減	皆減
墓地事業	4,611万円	4,869万円	▲5.3%	▲258万円
合計	91億6,514万円	91億6,656万円	▲0.1%	▲142万円

歳出

	令和2年度決算額	令和元年度決算額	対前年度比	
国民健康保険	46億6,981万円	47億7,805万円	▲2.3%	▲1億824万円
後期高齢者医療事業	5億9,911万円	5億5,469万円	8.0%	4,442万円
介護保険	34億6,128万円	33億5,217万円	3.3%	1億911万円
土地取得	26万円	22万円	13.8%	4万円
十里木高原簡易水道	—	4,985万円	皆減	皆減
墓地事業	4,252万円	4,523万円	▲6.0%	▲271万円
合計	87億7,298万円	87億8,021万円	▲0.1%	▲723万円

※水道事業会計・下水道事業会計・簡易水道事業会計は9ページに掲載しています。

財産などの状況

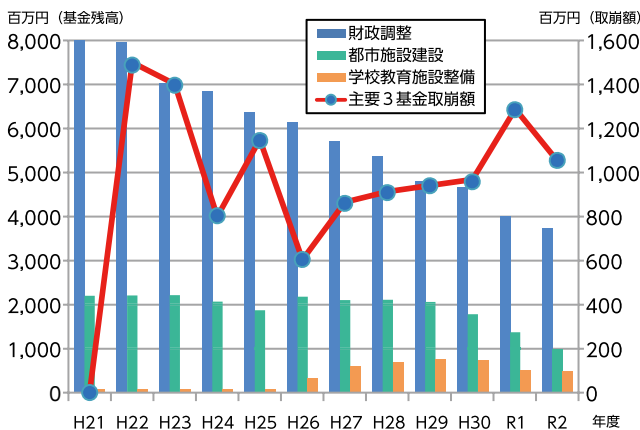
地方債と基金現在高

※地方債は家計に例えると借金に、基金は貯金にあたるものです。

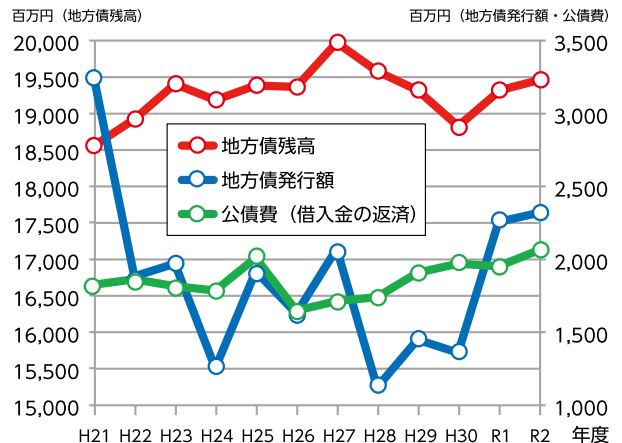
	令和2年度 現在高	令和元年度 現在高	増減額	市民1人あたり
地方債	194億6,307万円	192億 584万円	2億5,722万円	38万3千円
基金	59億6,332万円	67億8,543万円	▲8億2,211万円	11万7千円
うち財政調整基金	36億8,822万円	40億5,650万円	▲3億6,829万円	7万3千円
うち都市施設建設基金	9億5,820万円	13億8,462万円	▲4億2,642万円	1万9千円
うち学校教育施設整備基金	4億3,299万円	5億2,753万円	▲9,454万円	9千円

※住民基本台帳人口（令和3年3月31日現在）50,770人をもとに計算

主要3基金（財政調整・都市施設建設・学校教育施設整備）の残高・取崩額推移



地方債残高・地方債発行額・公債費の推移



※平成21年度の基金（預金）残高は、全体で114億4,286万円でしたが、平成22年度から不足する財源を基金から取り崩して賄っています。令和2年度の基金現在高は59億6,332万円で減少が進んでいます。

財政健全化比率・資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、令和2年度の健全化判断比率と資金不足比率を公表します。各指標の数値は早期健全化基準と財政再生基準を大きく下回り、健全な財政運営を行っています。

■令和2年度健全化判断比率

健全化判断比率とは、市の標準財政規模の数値などを用いて、赤字や借金の比率を計算したものです。次の4つの指標から財政の健全度が判断され、いずれかが一定の基準を超えた場合は新規の借入れが制限されるなどの制約があり、財政の健全化を図らなければなりません。

指標名	数値	早期健全化基準 (黄信号)	財政再生基準 (赤信号)
1. 実質赤字比率	—(黒字)	13.05%	20%
2. 連結実質赤字比率	—(黒字)	18.05%	30%
3. 実質公債費比率	9.9%	25%	35%
4. 将来負担比率	51.4%	350%	

※地方公共団体の一般財源の標準規模を示すもので、令和2年度の当市の標準財源規模は約120億円です。この数値は市税などに基づいて計算された数値で、家庭に置きかえると給料になります。

■令和2年度資金不足比率

公営企業会計ごとの赤字が、事業の規模に対してどの程度であるかを示すものです。赤字は発生していないので数値はありません。

指標名	水度事業会計	下水道事業会計	十里木高原簡易水道特別会計	経営健全化基準
資金不足比率	—(黒字)	—(黒字)	—(黒字)	20%

財政の健全度を判断する4つの指標

1. 実質赤字比率

一般会計の収支が赤字となった場合の指標です。財政運営の悪化の度合いを示します。家庭に置き換えると、年間収支の赤字が1年間の給料に対してどのくらいの割合であるかを表したものです。赤字は発生していないので数値はありません。

計算式：一般会計赤字額 ÷ 市の標準財政規模

2. 連結実質赤字比率

一般会計と国民健康保険などの特別会計すべての実質収支の合計が赤字である場合の指標です。地方公共団体全体としての財政運営の悪化の度合いを示します。赤字は発生していないので数値はありません。

計算式：全会計赤字総額 ÷ 市の標準財政規模

3. 実質公債費比率

1年間のうちに借金返済に支出された額の標準財政

規模に対する割合を表した指標です。資金繰りの程度を示します。家庭に置き換えると、1年間の給料に対する1年間の借金返済額の割合を表したものです。

計算式：1年間の借金返済額 ÷ 市の標準財政規模

4. 将来負担比率

特別会計、第3セクターまで含めた市の負債総額から積立金などを引いたものの標準財政規模に対する比率を表した指標です。将来財政を圧迫する可能性の度合いを示します。家庭に置き換えると、1年間の給料に対して何年分の借金があるかを表す指標です。この指標が350%（標準財政規模の3.5年分）を超えると早期健全化団体となります。

計算式：(負債残高総額 - 積立金等総額) ÷ 市の標準財政規模